

# そこに 学校があった

## 休廃校の歴史

### 北ノ川中学校 (下)

平成以降に休廃校になった学校を中心に振り返ります。

#### ソフトボール部の活躍と その礎となった野球部時代

75年の北ノ川中学校の歩みには、山間の小さな中学校とは思えないものがある。「北ノ川中といえばソフトボール」と思い浮かべる方もいよう。1975(昭和50)年の西日本大会初制覇を皮切りに、翌年は連覇を成し遂げ、その後も全国で知られる強豪校として活躍した。近年では2008年の全国中学総体でベスト8。2011年には同大会で優勝し全国制覇を果たした。さらに2014年には、全日本中学生男女ソフトボール大会で優勝と、数々の輝かしい実績を残した。

ソフトボール部は1968年頃までは野球部であった。野球部時代後半の1965年には“猛者たち”がいた。特にキャプテンでエースで4番の生徒の負けん気は人一倍。「マウンドは自分が守る」と、春休みに自主キャンプを敢行。1学年後輩のキャッチャーに練習相手を頼んだ。このキャッチャーもまた強者で、体格が良く「小4から中3まで相撲で負けたことがない」という“逸材”。このバッテリーを擁して町で初優勝し、郡大会へ初進出したのであった。

#### 今も語られる“レジェンド”たち

さて、北ノ川中学校の野球とソフトボールを語る上で、伝説の卒業生がいる。往年の高校野球ファンなら知らない人はいないであろう。夏の甲子園でのサイクルヒット達成と言えば、まずはその人の名前が出てくるはずである。そう、土佐高校の玉川壽氏である。第57回全国高校野球選手権の2回戦、桂高校(京都府代表)戦で、当時史上二人目となる快挙を達成したのである。北ノ川中学校が生んだヒーローと言って良い。



当時の高校野球界をあっと言わせた玉川選手!

陸上競技でも伝説的活躍をした生徒がいる。1966年度卒業の福留明美さん。「確か、中学校女子100mの県記録に続いて四国記録も持ちこった」と当時の同級生が言う。それから約25年後の1991年度卒業生・宮脇朝美さんに至っては、100m・200mで県では無敵を誇り、四国大会、全国大会、国体と駆け抜け、その健脚を発揮した。朝美さんの活躍に周囲も動く。

春野陸上競技場からタータン(陸上競技場のトラックに敷かれているゴム製の舗装)を譲り受け、国道下に練習場を作ったのである。地区の人々はこれを「朝美ロード」と呼び、生徒たちの練習を温かく見守った。



国道下に今も残る「朝美ロード」

#### 生かされ続けた 小中一体型小規模校のメリット

基本は男子はソフトボール部、女子はバレー部で、そこにプラスされる形で陸上部があり、生徒たちは「掛け持ち」だった。次第に生徒数が減っても個人競技である陸上部は機能した。後年、その指導にあたった教員曰く「走ることにまぐれはなくて、目に見えて積み重ねが出るんです」と。そしてこう続けた。「小さな学校だから部活動の選択肢が限られるというデメリットはありますが、学校生活全てにおいて、一人一人に、手厚く、温かい目が行き届くというメリットがありましたし、それは教員と生徒の関係だけではなく、地域住民と学校の関係にも表れていました」それを象徴する風景があったという。運動会の最初と最後のラジオ体操の時、どこの学校でも保護者や地域住民がテントの下や後ろで、一緒に体操をするものであるが、北ノ川に赴任した年に、みんなが当然のようにグラウンドに出て、子どもたちと一体になってやる様子を見て、その教員は感動したそうだ。北ノ川中学校は、小学生との距離が近いのもそうであるが、この地域で暮らす全ての人々と、昔からずっと変わらず一体であったからなのであろう。

2022年3月、北ノ川中学校の歴史はその幕を閉じた。そこにはいつも子どもたちがいた。そこに学校があった。(おわり)



昭和20年代からの変遷

#### 町のうごき

(2月28日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	6,971	-10	男 2	8	15	19
女	7,514	-16	女 0	7	14	23
計	14,485	-26	計 2	15	29	42
世帯数	7,801	-17	(2月中の届出)			

窪川地域 10,355人 大正地域 1,990人 十和地域 2,140人